

地域医療連携推進法人はりま姫路総合医療センター整備推進機構
令和元年度地域医療連携推進評議会 議事録

- 1 開催日時 令和元年6月4日(火)13:30-14:30
- 2 場所 じばさんびる 501
- 3 評議員総数 8名
- 4 出席評議員数 7名
- 5 出席評議員 山本 一郎、井上 喜通、黒川 優、藤澤 正人、
邊見 公雄、守殿 貞夫、石川 誠
- 6 出席理事等 木下 芳一(理事長)、八木 聡、小田 博則、橘 史朗、
坂原 康敏、今後 元彦

7 議事の経過の要領及び結果

定刻に至り司会者小田は、開会を宣言し、本日の評議会は、7名が参加している旨を告げ、議事の審議に入った。

(1) 平成30年度事業報告書及び平成30年度決算

事務局長は、当期における(自平成30年4月1日 至同31年3月31日)における事業状況を平成30年度事業報告書等により説明した。

質疑及び意見はなく承認された。

(2) 令和元年度事業計画

事務局長は、今期における(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日)における事業計画を令和元年度事業計画により説明した。

質疑及び意見はなく承認された。

(3) その他(質疑)

(評議員) 各科の医師必要数について、関連大学との協議は始まっているのか。医局人事の時期を踏まえ適切に協議していく必要がある。

(理事等) 大学執行部との協議は始めている。人事の時期も踏まえ対応して参りたい。

(評議員) 圏域における ICT を活用したネットワーク構築についてはどのような状況か。

(理事等) 他圏域のネットワークシステムの状況も踏まえて検討を進めていく予定にしている。

(評議員) 圏域の医師会では、検討が始まっている。新病院のネットワーク整備においても、医師会との連携を検討していただきたい。

(理事等) 検討して参る。

(評議員) JR 姫路駅からの徒歩アクセスの整備状況はいかがか。動く歩道はつけるのか。

(理事等) JR 姫路駅から2階レベルで歩行者デッキを接続する予定。動く歩道までは設置しない。

(評議員) 公的医療機関等 2025 プランを作成する調整会議での議論はどのように進んで

いるのか。

(理事等) 調整会議としては、調整中の状況。

(評議員) 医療機能は、医師確保とも絡んでくる問題なので関連大学ともしっかりと検討していただきたい。

(評議員) 法人の名称から、仮称をとった県立はりま姫路総合医療センターが新病院の名称になるのか。姫路医療センターと似ており紛らわしい。

(理事等) 条例案が議会で議決されるまでは、(仮称) がついたままになるが、開院の時期が近づいたら議論を深めたい。

(評議員) 新病院予定地は、津波の影響はあるのか。

(理事等) この地域は、浸水しないと聞いている。

(評議員) オペ室が効率的に使われるよう運用をしっかりと検討していただきたい。

(理事等) 検討して参る。

以上をもって、議事を終了し、14:30 閉会した。

以 上

【詳細版】

(敬称略)

- (藤 澤) ハード面については、これまで説明を聞いたが、各科の必要医師数については、まだ協議をスタートしていない。いつごろ協議を始めるつもりか。
- (木 下) 神戸大学執行部との意見交換会を設けており、年に4回の開催を予定している。先日、第1回を行い総数として必要となる医師数を提示した。第2回目以降は、各科ごとでの必要数を提示し協議して参りたい。
- (藤 澤) 大学執行部との議論も必要と思うが、各診療科トップとの議論も大切。開院まで時間が迫ってきているので、各診療科トップにも同じ情報が伝わるよう工夫していただきたい。協議は、いつごろスタートする予定か。32年度、33年度と人事のタイミングは2度あるが、これでもギリギリのタイミングである。早急に、各科に必要な数を伝え、人員要求は早めに行っていただきたい。
- (木 下) 各診療科にも話が伝わるように進めて参りたい。大学執行部との第2回意見交換後、各科に情報を伝えるように進めて参る。
- (守 殿) 公的医療機関等 2025 プランを作成する調整会議での議論はどのように進んでいるか。また、新病院では地域包括ケア病床は設ける予定にしているか。
- (木 下) 調整会議については、具体的にまだ進んでいない。地域包括ケア病床については、新病院では行わない。
- (守 殿) 兵庫県から、病床数の算定方法として、埼玉県方式と大阪府方式が提示された。これらの算定を行った場合、現2病院の病床数はどのような評価になったか。
- (川 合) 埼玉県方式で積算した場合、全床急性期病床になっていなかった。
- (木 下) 新病院は、全て急性期病床で計画している。
- (山 本) 調整会議の状況についての補足だが、2病院の計が新病院の機能でないことから、調整会議としては調整中の状況。埼玉県方式と大阪府方式で算定した病床構成も参考にしながら、検討をする必要があると認識している。
- (守 殿) 今後、地域包括ケア病床を民間で担えなくなれば、公立病院でも担う必要がでてくると思われる。医療機能は、医師確保とも絡んでくる問題なので神大ともしっかりと検討していただきたい。
- (山 本) 圏域における ICT を活用したネットワーク構築については、検討が進んでいるか。
- (小 田) 他圏域のネットワークシステムの状況も踏まえて検討を進めていく予定。検討はこれからの状況。
- (山 本) 市医師会は、病院間のカルテを参照できる富士通のシステムを導入したいと思っている。国は、マイナンバーが保険証として使えるようシステムの整備を進めると聞くが、これらのシステムを新病院が率先して導入すれば地域の医療機関も動き出すと思う。前向きに検討していただきたい。
- (木 下) 一体整備する獨協学園研究機関のテーマが地域医療のネットワークと聞いている。関係機関とも一緒になり検討して参る。
- (邊 見) 法人の名称から、仮称をとった県立はりま姫路総合医療センターが新病院の名称になるのか。姫路医療センターと似ており紛らわしい。

- (八 木) 条例案が議会で議決されるまでは、(仮称) がついたままになるが、開院の時期が近づいたら議論を深めたい。
- (藤 澤) 人材教育についてだが、県立病院群と製鉄記念広畑病院が総合に連携し、各病院の特徴を活かした臨床研修プログラムを提供するとあるが、当然、神戸大学とも連携して進めていくと理解していいか。
- (木 下) お見込みの通りです。
- (守 殿) 新病院予定地は、津波の影響はあるのか。
- (小 田) この地域は、浸水しないと聞いている。
- (守 殿) 感染症対策はどうなっているか。
- (木 下) クリーンルームは作る予定にしているが、感染症に特化した病床は整備していない。
- (守 殿) 患者の利便性を考え、ロビーは、広く設けているか。
- (八 木) 同規模の県立病院と比較しても敷地面積が狭いことから、やりくりで苦慮しており、部屋の配置などで工夫している。
- (石 川) JR 姫路駅からの徒歩アクセスの整備状況はいかがか。動く歩道はあるのか。
- (八 木) JR 姫路駅から2階レベルで歩行者デッキを接続することになっているが、動く歩道はない。姫路市の負担により屋根も設け、雨もしのげるようになっている。
- (坂 原) 播但線と交差する箇所では、エレベーターで地上階におりてもらう動線になっている。
- (藤 澤) オペ室 16 室は、日帰りオペも含めた数か。
- (異) 日帰りオペも対象に、16 室を整備している。
- (藤 澤) 眼科などの日帰りで、いくつか部屋を使用した場合、736 床がフル稼働すれば、オペ室が不足することになるのではと懸念される。分析はしっかりとしているのか。
- (川 合) 将来予測を全面的に考慮した部屋数になってはいない。当初 18 室の予定であったが、スペースの関係もあり 16 室で決着した。
- (藤 澤) ハイブリッド 4 室は妥当な数か。大学病院では、2 室か 3 室を診療科が共有している。ロボットも 2 室とあるが、どのような使い方をするのか。運用をしっかりと検討していただきたい。